

五卷本『庸言知旨』引用書索引

竹越 孝

- ・ 五卷本『庸言知旨』の本文及び注の中で引かれる書物の名称をピンインの順に配列し、言及箇所を付す。
- ・ 篇名のみが言及される場合は書物名の下に記す。
- ・ 略称は書物の後ろの（ ）内に示す。

b	八旗通志	1-3-21
f	佛經	8-18-6 13-11-5
j	祭祀條例	6-1-2
l	禮記	1-4-1
	檀弓	4-5-8
	内則	8-15-6
	孔子閒居	4-19-3
	月令	11-10-1
	論語	11-16-6 13-15-8
m	滿漢成語對待 (對待)	2-21-4 3-5-8 3-21-5

7-5-4
 10-14-10
 10-15-7
 11-15-5
 14-18-2
 017-12
 m 滿洲源流考
 1-3-21
 孟子
 8-3-7
 q 清文鑑 (鑑)
 1-3-20
 3-17-4
 7-4-8
 8-4-4
 8-6-10
 8-12-1
 8-12-8
 8-17-4
 13-7-2
 清文補彙 (補彙)
 1-7-10
 2-5-4
 2-8-4
 2-17-10
 2-17-13
 3-14-10
 6-7-8
 7-8-11
 7-17-6
 9-14-11
 9-18-4
 10-7-3
 11-12-5
 11-13-6

		13-14-5
	清字經	
		13-11-5
s	詩經	
	王風	
		4-6-13
	小雅	
		4-10-6
		8-6-8
		11-18-4
		13-18-5
	氏族通譜	
		1-3-21
	書經	
	盤庚	
		15-9-3
	說命	
		4-9-1
	武成	
		5-11-8
		10-10-11
y	易經	
		1-5-12
		9-17-4

＜あとがき＞

『神戸外大論叢』で3回（2020年4月～2021年4月）、『KOTONOHA』で14回（2021年4月～2022年5月）にわたり連載してきた「五巻本『庸言知旨』校注」は、以上をもって終わる。『庸言知旨』については夙に寺村政男先生の業績があり、また2018年に北京大学出版社の叢書『早期北京話珍本典籍校釈与研究・清代満漢合璧文献萃編』の1冊として王磊・劉雲校注『庸言知旨』（全2冊）も出ていたので、やや逡巡する気持ちもあったが、これまでの研究はほぼ二巻の刊本を対象とするものに限られ、大阪大学総合図書館蔵の五巻鈔本は内容的にその約1.5倍のボリュームを持つことから、最もオリジナルに近い存在としてこれを紹介する価値は十分あると考えて、連載開始に踏み切った。途中、『神戸外大論叢』が半年刊から年刊に変更されたことに伴い、発表媒体を『KOTONOHA』に移すというイレギュラーな事態も生じたが、ほぼ計画通りに全書の記述を終えることができた。2021年度は本務校でサバティカルの機会を与えられたが、コロナ禍で当初予定していた海外研修の期間短縮を迫られた分、自宅に籠って連載の貯金を作ることができたのは幸いだった。

筆者が清代の満漢合璧会話書類を対象とした校注本、即ち満洲語のローマ字転写と逐語訳、漢字の翻刻、そして異本間の校合結果を記したテキストを発表するようになってから、10年あまりの時間が流れた。これまで、規模の大きいものはまず『KOTONOHA』に連載してそれを後に書籍の形でまとめ、比較的短いものは『神戸外大論叢』に発表するというスタイルで進めてきた。古い順にそのリストを掲げると以下の通りである。

- 1) 『兼満漢語満洲套話清文啓蒙一翻字・翻訳・索引一』, 神戸市外国語大学研究叢書 49, 神戸市外国語大学外国学研究所, 2012年3月.
- 2) 『新刊清文指要一翻字と翻訳一』, KOTONOHA 単刊 10, 古代文字資料館, 2015年4月.
- 3) 『満漢字清文啓蒙〔会話篇・文法篇〕一校本と索引一』, 開篇単刊 16, 好文出版, 2016年2月.
- 4) 「校注『清語易言』」(陳暁氏と共著), 『神戸外大論叢』第67巻第4号, 2017年11月.
- 5) 『「一百條」・「清文指要」対照本』(Ⅰ) 本文篇, (Ⅱ) 補遺・索引篇, 神戸市外国語大学研究叢書 60, 61, 神戸市外国語大学外国学研究所, 2017年12月, 2018年12月.

- 6) 「校注『清話問答四十條』」(上)(下), 『神戸外大論叢』第 68 巻第 1 号, 第 69 巻第 2 号, 2018 年 4 月, 2018 年 11 月.
- 7) 「校注『問答語』」, 『神戸外大論叢』第 70 巻第 2 号, 2019 年 4 月.
- 8) 「校注『滿漢合璧集要』」(上)(下), 『神戸外大論叢』第 71 巻第 1 号, 2019 年 11 月.
- 9) 『滿漢成語對待校注』, 神戸市外国語大学研究叢書 64, 神戸市外国語大学外国学研究所, 2021 年 12 月.

いずれも電子媒体での利用が可能である。ここに 10 番目として加わることになるであろう五巻本『庸言知旨』についても、全体を見直して相応の修正を加えた上で、読者の利用に供するべく準備を進めている。

本連載を終えて、とりあえず次のように言うことができるようになり安堵している。清代の主な滿漢合璧会話書類の中で、本邦未訳の文献はなくなった。

2022 年 6 月